いまいは今
vol. 317

発　行　　今井町町並み保存会
発行日　　令和８年11月1日
電　話　　0744-22-1128
http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp
◇ご意見・ご感想は
　今井景観支援センターまで

今井まちなみ交流センター「華甍」　長期休館!!



９月18日から今井まちなみ交流センター「華甍」が休館となりました。

橿原市によると「華甍」は、平成３～５年（1991～1993年）に改修工事が行われました。当時は建築物の耐震性が大きな課題として認識されておらず、調査・復元が主体で、耐震工事は実施されていませんでした。

近年、建物の耐震性が懸念されるようになり、橿原市では市有建物の耐震化を順次進めています。「華甍」についても、木造建築物で耐震性に問題があると考えられることから、令和７年に予備診断を実施し、今年は外部専門機関による耐震基礎診断を行っています。最終報告は12月頃の予定ですが、現時点ですでに耐震性能に大きな問題があることが判明しました。このため、地震による倒壊などの危険を避け、安全を最優先に考え、やむを得ず休館を決定したとのことです。

今後、再開に向けては、建物の安全性確保と将来の活用方法を含めた保存活用計画の策定が必要となります。その計画に基づき、復元や耐震改修工事の内容を検討することになります。特に、煉瓦積みの基礎部分を含めた耐震対策には専門的な検討が欠かせず、専門家による委員会などの設置も必要と考えられます。さらに、「華甍」は奈良県指定文化財であり、改修には数億円規模の費用も想定されます。県の文化財修理事業の予算規模も踏まえ、関係機関との調整や財源確保が難題です。そのため再開には相当な年月を要することも懸念されます。

一方、「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録を受け、橿原市への来訪者が増え、今井町を訪れる人も増加すると期待されます。その中で、今井町の魅力を伝え、学習・観光の拠点として親しまれてきた「華甍」の長期休館は、今井町にとって大きな課題です。世界遺産登録という追い風を生かすためにも、休館中も途切れることなく地域の魅力を発信し、来訪者を受け入れる取り組みが重要です。

現在、橿原市観光協会は、代替施設として称念寺北側の今井まちづくりセンターに「今井まちなみ案内所」の看板を掲げ、案内業務を行っています。今後は案内所の機能を充実させ、来訪者に十分な情報を提供できる体制を整えることが望まれます。同時に、「華甍」の一日も早い再開に向け、橿原市に対して速やかな検討と必要な改修工事の実施を要望していくことも必要です。



奈良まほろばソムリエ検定 体験学習プログラム開催

9月27日（日）10時～16時、今井町各所で「Nara」観光コンシェルジュと巡るⅢ～奈良検定特別コース今井町の歴史を見る・食べる」と銘打った奈良商工会議所が主催するプログラムを開催。

参加者は、遠くは福岡からの方も含めて26人で「奈良通一級、二級」の合格者で、「奈良ソムリエ」合格を目指している方々です。

若林稔コンシェルジュの案内で、華甍から重文今西家を経て、旧米谷家で「大和の茶粥」を味わい、昼からは阿伽陀屋若林亭で呈茶席、講演を聴き順明寺で解散しました。





まちづくり亭　今井寄席開催

10月3日（土）19時～20時40分、今井まちや館において奈良大学落語研究会古都家一門を開催。昨年とは異なり、好天に恵まれ聴衆もほぼ例年並みで、学生たちの熱演ぶりにひととき古典落語の世界に没入できました。


開演準備の整った
今井まちづくり館



「悋気の独楽」
古都家　紗ケ湖


「火焔の太鼓」
古都家　東間



「反対俥」
古都家　乱笑



「普段袴」
古都家　天満


終演後に古都家
一門の記念撮影

●畿央大学の学生60数人が来町

10月3日（土）、9時30分、今井町地区公民館に畿央大学人間環境デザイン学科の一年生が集合の後、町内を見学して研修しました。



●春日神社、太鼓橋架け替え決まる

老朽化が著しく数年前から通行止めになっていた太鼓橋の架け替え事業が始動し、10月11日（日）、春日講請世話人に今井整備保存事務所と設計業者による説明会と意向調査がありました。工事は令和9年度に計画。



●着物JAZZ　順明寺

11月3日（火・祝）13時～18時

●全国町並みゼミ　松阪大会

「温故知新」―町並みから市民創造

12月12日（土）～14日（月）